

琴が奏でるロマンの調べ

人生観を変えてくれた 楽器との出会い

日本人に耳心地の良い音色。ロマン琴 Gleff 代表の川上愛子さんは、日本生まれの楽器・ロマン琴奏者です。

川上さんは、大正琴をもっと身近なものにしたいという思いから、「大正浪漫」という言葉にちなんでロマン琴と命名。演奏する際には、琴を斜めに傾け、鍵盤や指の動きがよく見えるイスタイルという独自の方法で、ロマン琴の魅力を存分に表現しています。

「私の人生観を180度変えてくれた楽器です」。内気だった川上さんとロマン琴の出会いには、15歳の時に母に勧められた琴の教室。初めて見る楽器と、農村の人たちのアンサンブルに衝撃を受けました。ロマン琴に魅了された川上さんは、高校卒業後に恩師・衛藤由郎さんの琴修会(現琴衛会)に所属し、日本各地や世界へ遠征。オーケストラでは、演奏後、スタンディングオベーションが起きました。

「音楽の都で称賛されたことは、とても強い自信になりました。遠征を重ね、さまざまな人と触れ合う中、社交的な性格に変わっていききました」

数々の逆境を 乗り越えて

平成24年、業界に新しい風を吹き込むべく、川上さんは新団体を立ち上げました。しかし、決して順風満帆ではありませんでした。立て続けに熊本地震・コロナ禍が発生し、会員数が大きく減少。演奏会も今年まで開催できませんでした。さらに、突発性難聴を発症。「突然左耳が聞こえなくなり、目の前も真っ暗になりました。辞めてしまうことも考えましたが、踏みとどまり、前へ進む力をくれたのは、自分の半生と一緒に歩んできたこの楽器です」

夢を尋ねると、「熊本城ホールで演奏します!」と力強く宣言する川上さん。ロマン琴の普及を続ける川上さんの挑戦はまだまだこれからです。

下段写真左から/
独自の演奏方法
「イスタイル」/カ
ラオケ発表会での
ゲスト出演(本人
提供)/町文化祭
での演奏(本人提
供)

